

## 小論文 問題用紙 (No. 1/2)

次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

こうして二〇二〇年九月の国会において、社会民主労働党のロヴェーン (Kaj Stefan Löfven) 首相は、新しい社会ウイジョンの実現を目指す予算案を提出することになる。ロヴェーン首相は目指すべき新しい社会ウイジョンを、「強い社会」の新たな構築として打ち出している。

ロヴェーン首相はスウェーデン国民に、スウェーデンは世界で最も安心して老いることのできる国ではなかったのか、スウェーデンは子どもたちへの就学前教育を世界に誇ってきたのではないのか、と問いかけている。こうして「強い社会」のウイジョンでは、スウェーデンが誇りとしてきた高齢者ケアと育児という福祉サービスを、世界最高の水準にすることが目指されている。

しかも、誇るべき高齢者ケアにしろ、育児サービスにしろ、質の劣化が露呈してしまったのは、福祉サービスの従事者の労働条件が低水準であったことに重要な要因があると分析している。そのため、福祉サービスや医療サービスの労働条件の改善を急務として取り組み、従事者の雇用拡大を訴えている。スウェーデンでは、二〇二〇年にEUで最も低い失業率を実現するはずだったが、コロナ・パンデミックに見舞われて、ギリシアやスペインに迫る高さにまで失業率が悪化してしまった。「参加社会」となっているスウェーデンでは、国家は社会システムである家族のように組織化されなければならないとする「国民の家 (folkhemmet)」という政策理念が定着している。そのため「国家」が「社会」と区別なく使用されている。

「国民の家」という政策理念は、一九二九年の世界恐慌の大惨禍のもとで、社会民主労働党として政権の座についたハンソン (Per Albin Hansson) 首相の打ち出した政策ウイジョンに由来する。家族の中では、「誰もが家族のために貢献したい」と願っている。国家も家族と同様に組織されていると構想すれば、「国民の誰もが国民のために貢献したい」と願っているということになる。

ところが、世界恐慌で巷には失業者が溢れている。失業は「国民のために貢献したい」という国民の切なる願いを残酷にも打ち砕く非道となる。こうした国民の願いを成就させるために、失業を解消することが、「国民の家」としての国家の使命となる。

こうした「国民の家」の理念から、福祉分野で雇用を創出することによって、「国民のために貢献したい」という国民の願いを叶えようとした。福祉分野は、社会システムでの人間の生活を支える社会環境を改善するからである。福祉とともに雇用創出分野として位置づけられているのが、環境である。それは、社会環境と自然環境の破壊による根源的危機に対処するためだといってもよい。

しかし、コロナ・パンデミックの歴史的教訓に学べば、福祉サービスも環境サービスも、「量」とともに「質」の確保が求められる。「質」の確保には当然、労働条件の改善が要請される。それとともに、「質」の高さには、人間の能力の向上が求められる。福祉分野や環境分野に人的資源を投入するとしても、「質」の高い人間の能力を発揮するための再訓練・再教育という教育サービスが必要となる。

そもそも「強い社会」のウイジョンとは、「人生を再調整できる可能性」の高い社会と説明されている。それはスウェーデンのパルメ (Sven Olof Joachim Palme) 首相が教育大臣を務めていた一九六八年に提唱して以降推進してきた、人生のやり直しが利くリカレント教育を強化することを意図している。つまり、「誰でも・いつでも・どこでも・ただで」の原則のもとに、教育・訓練の再整備を基軸にして、「人生を再調整できる可能性」の高い「強い社会」を構想したのである。

こうしてみてくれば、スウェーデンの「強い社会」というウイジョンは、コロナ・パンデミックという歴史的経験から、人間の社会の価値体系の最上位に人間の生命を位置づけ、人間の社会を再編成しようとするウイジョンだということができる。そうした改革理念にもとづいて、人間の生命が活動する社会システムの強化を基軸として、社会システム、政治システム、経済システムの再構成を意図していたのである。

しかし、ここで着目しなければならないことは、こうした社会ウイジョンが形成されるプロセスにある。人間の歴史では、必ず結果にプロセスが含まれる。新しい社会ウイジョンを、社会システムから疎外された政治システムが上から構想する場合と、社会システムの生活者の自発的運動によって下から構想する場合とは、結果は決定的に相違する。スウェーデン国民はコロナ・パンデミックという外在的危機の経験に、国民一人ひとりが学び、熟議を通じて近づき合いながら、連帯して新しい社会ウイジョンを築こうとしている。

実際、ロヴェーン首相は新しい社会ウイジョンを形成するにあたり、すべての政党に「連帯社会構築のウイジョン」を提出することを求めている。政治システムを社会システムに埋め込むスウェーデンの「国民の家」のモデルは、グローバル化した市場経済によって階級分裂が激化してしまい、崩壊の危機に瀕していた。そうした崩れつつある「国民の家」が、コロナ・パンデミックに襲われる。ロヴェーン首相がすべての政党に「連帯社会」のウイジョンを求めたのは、

## 小論文 問題用紙 (No. 2/2)

新しいヴィジョンを構想するにしても、それを国民諸階級の合意形成のもとに実現したかったからである。

日本でもコロナ・パンデミックという歴史的悲劇を抜け出す過程で、新しい社会ヴィジョンが打ち出されている。それが岸田内閣の掲げる「新しい資本主義」というヴィジョンである。この「新しい資本主義」のヴィジョンでも、市場万能的な新自由主義からの転換を叫んでいる。新自由主義的な政策が市場に依存しすぎたために、格差や貧困が拡大し、なおかつ経済の停滞も生じている。しかも、市場が自然に負荷をかけすぎたために、気候変動問題が深刻化し、さらに「分厚い中間層」が衰退したために、健全な民主主義が危機に陥っていると指摘されている。

こうした新自由主義的な経済政策が生み出した様々な弊害を乗り越え、持続可能な経済社会を求める動きが歴史的なスケールで始まっている。「新しい資本主義」のヴィジョンは、「成長と分配の好循環」を創り出すことよって、こうした歴史的スケールで始まっている動きを主導するヴィジョンだと唱えられている。

「成長と分配の好循環」が市場に依存するのではなく、「官」と「民」が全体像を共有し、協働する「官民連携」が説かれている。「官」とは、すべての社会の構成員が統治すべき「公」である政治システムを、社会の構成員に代わり、実質的に統治する者という意味だと思われる。「民」も「タミ」と読めば、社会システムにおける生活者という意味になるが、ここでは「ミン」と読んで、経済システムにおける「民間企業」という意味だと思われる。そのように考えると、コロナ・パンデミックの教訓から、社会システムにおける生活者としての国民の存在の重要性を、嫌というほど認識したにもかかわらず、そうした認識が欠如しているのではないか。

それは市場万能主義が生み出した弊害の解決を、社会の構成員の共同意思決定つまり民主主義に委ねるといふ発想に結びついていないことを意味する。政治システムを実質的に動かす「官」と、経済システムを実質的に動かす「民」との連携に、国家の運営を委ねるといふのであれば、それは重商主義政策である。

重商主義とは、経済システムと政治システムが分離する、近代社会が成立する以前の絶対主義国家が採った経済政策である。つまり、社会の構成員の共同意思決定としての民主主義にもとづいて運営される財政が成立する以前の、国家の政策である。そうした絶対主義国家の打ち出した重商主義政策とは、「国家をビジネスのように運営する (run the state like business)」という政策だったのである。

国家を企業のように運営しようとする重商主義の合言葉は、「殖産興業」や「富国強兵」である。こうした重商主義のもとでは、人間は生命活動を営む生活者としては見なされなくなる。人間は「殖産興業」や「富国強兵」のための手段だと認識される。つまり、人間一人ひとりがたった一つのかげがえのない生命をもつ尊い存在だと認められなくなってしまうのである。

人間は人口ではない。人間はいっぴく人口になってしまったのかといえば、それは重商主義の時代にだといってもいいすぎではない。一六九〇年に刊行されたウィリアム・ペティ (William Petty) の『政治算術』でも、国家の富と力は、国民の数と性格にもとづくとして理解している。人口という概念は、人間をかがえのない生命ある存在としてではなく、没個性的に把握する。それは人間を労働力や兵力を担う手段だと理解するからである。

人間の社会は「人間を目的とする」社会でなければならぬ。ところが、人間の社会が「人間を目的とする」社会ではなく、「人間を手段とする」社会になると、人間は人口になってしまふ。つまり、人間は人口として統制・管理する対象と見なされる。しかし、コロナ・パンデミックは「人間を手段とする」社会に未来がないことを明らかにした。人間の生命を守るためには、人間を手段とする活動を停止せざるをえなくなったからである。

「新しい資本主義」のヴィジョンでも、新自由主義を批判して、「人重視の資本主義」が唱えられ、「人への投資」の重要性が打ち出されている。しかし、その「人」とは「目的」としての人間なのか、「手段」としての人間なのかを問えば、「手段」としての「人重視」であり、「手段」としての「人への投資」に思えてならない。

私たちはコロナ・パンデミックの経験から、人間の社会で最も大切にしなければならない価値は、人間の生命だということを知っている。そのため市場万能主義の新自由主義が打ち砕いてしまった、人間と自然とが「生」をともにする絆と、人間と人間とが「生」をともにする絆とを、人間の生命が躍動するように再創造することが求められている。そうだとすれば、人間の生命のために「人間を目的とする」社会をデザインするヴィジョンが求められていると考えるべきである。

出典：神野直彦『財政と民主主義』岩波書店（岩波新書）、二〇二四年、一一八頁―一二五頁

問一 「強い社会」と「新しい資本主義」の差異について、二〇〇字以内で説明しなさい。

問二 「人間の社会は『人間を目的とする』社会でなければならぬ」とする筆者の見解に八〇〇字以内で自由に考察を加えなさい。

- I. 次の英文を読み、各設問に答えなさい。英文は[ I ]から[ IV ]の各ブロックに分けられています。  
なお、\*のついた語句には、文章の末尾に注があります。(30点)

[ I ] It's amongst the most beloved traditions of late British summer, as families arm themselves with tupperware containers and venture out to discover abundant wild blackberries growing freely along roadsides, in fields and throughout woodlands.

However, specialists are cautioning that there are circumstances where blackberry picking could land you in hot water\*, potentially ( A ) in fines for foraging\* in particular locations.

Experts from ecology consultancy Arbtech have issued warnings that blackberry foragers must adhere to proper guidelines to prevent environmental damage and avoid potential £300 penalties.

[ II ] Wild blackberries rank among Britain's most adaptable foraged fruits, suitable for eating fresh, freezing, cooking, or preserving.

August, September and early October represent the optimal\* months for harvesting these succulent\* berries, though Arbtech emphasizes the importance of responsible picking practices, given that hedgerows\* serve as crucial food sources and habitats for wildlife, including birds, insects and small mammals, reports the *Express*\*.

Completely stripping bushes or trampling\* nearby vegetation can ( B ) lasting damage on local ecosystems.

[ III ] Such behavior may also constitute a criminal offence when carried out irresponsibly. Arbtech clarifies: "Under the Theft Act 1968, picking wild flowers, fruit, fungi\*, and foliage\*—known as the 'Four F's'—is generally ( C ), but with some restrictions.

"People are allowed to forage blackberries for personal use, provided they don't uproot the plant. That means gathering blackberries from hedgerows and commons\* is generally legal, as long as they're not sold for profit.

"However, picking on private land without the owner's consent could be classed as trespassing, and many protected areas such as nature reserves, Sites of Special Scientific Interest (SSSIs) and some Royal Parks have bylaws\* banning foraging altogether.

"If you get caught picking blackberries where you're not allowed, it doesn't matter how little you took, you could still face a fixed penalty which in some cases can range from around £100 to £300."

[ IV ] Arbtech's specialists emphasize that responsible foraging is crucial for safeguarding wildlife and maintaining plant wellbeing. Berries ought to be gathered ( D ), with ample quantities remaining for birds and other creatures, whilst ensuring no harm comes to the surrounding ecosystem.

An Arbtech representative commented: "Blackberry picking is a brilliant way to enjoy the outdoors and connect with nature, but it's important to remember that we're not the only ones who rely on them.

"Think of hedgerows like wildlife supermarkets—birds, mammals and insects all depend on those berries for food. So if we take too much or damage the plants, we're removing a vital resource.

"The golden rule is to pick lightly, leave plenty behind, and always check whether you're allowed to forage in that spot because in some places it's not just bad etiquette, it's against the law!"

2026 年度経済学部  
高大接続入学試験  
英語 問題用紙 (No. 2 )

[注] hot water 困難な状況	forage 集める	optimal 最適な
succulent みずみずしい	hedgerow 生垣	the <i>Express</i> イギリスのタブロイド紙
trample 踏みつける	fungi 菌類	foliage 葉
commons 公有地	bylaw 条例	

1. 空欄(A)~(D)に入るもっとも適切な語を、(1)~(4)の中から一つずつ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。(2点×4=8点)

- (A) (1) causing (2) leading (3) making (4) resulting  
(B) (1) inflict (2) lessen (3) prevent (4) suffer  
(C) (1) perfected (2) permitted (3) preferred (4) produced  
(D) (1) immediately (2) largely (3) moderately (4) sufficiently

2. 本文の次のそれぞれ指定されたブロックについて、その内容にもっとも合致しているものを、(1)~(3)の中から一つずつ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。(3点×4=12点)

[1] ブロック I

- (1) イギリスでは、農園で栽培されているブラックベリーを摘む習慣は広く行なわれている。  
(2) エコロジー・コンサルタント会社の専門家たちは、ブラックベリー摘みの規制に従うことに疑問を呈している。  
(3) ブラックベリーを摘むことは、環境に悪影響を及ぼしたり、罰金につながったりすることもある。

[2] ブロック II

- (1) イギリスではブラックベリーは様々な方法で食されている。  
(2) ブラックベリーは主に8月から10月に収穫できるが、収穫には経験とコツが必要である。  
(3) イギリスではブラックベリーに加え、夏季には鳥、昆虫、小さな動物も貴重な食糧源となっている。

[3] ブロック III

- (1) 私有地で許可なしにブラックベリーを摘むことは不法侵入とみなされる可能性がある。  
(2) 自然保護区域では、ブラックベリーを摘むことは例外なく禁止されている。  
(3) 違法にブラックベリーを摘んだ場合に科せられる罰金は、収穫量に比例する。

[4] ブロック IV

- (1) ブラックベリーを摘みすぎることは、周囲の生態系に悪影響を及ぼしかねない。  
(2) スーパーマーケットに並ぶブラックベリーの多くは、違法に収穫されたものである。  
(3) ブラックベリーを大量に摘む際には、葉を残しておくのがポイントである。

3. 下線部を日本語に訳し、解答用紙に記入しなさい。(10点)

- II. 次の英文を読み、各設問に答えなさい。英文は[ I ]から[ IV ]の各ブロックに分けられています。  
なお、\*のついた語句には、文章の末尾に注があります。(30点)

[ I ] Most people want to work hard, be productive, and make money. There is little tolerance for slackers\*. But if we understood what idleness can do for our brains, perhaps we would encourage it more.

The case against idleness is extensively overstated in word and deed. We are told that the Devil finds work for idle hands. Ever since the Industrial Revolution, public and private clocks and timepieces have proliferated. Humans became slaves of time, rising in unison to make it to work by a fixed hour. Moreover, they were inculcated\* in the proper use of each minute as time and motion experts devised new ways to gin up\* productivity and sweeten\* profits.

The scheduled existence has even overstepped the bounds\* of work and extends into our free time. For some people, this means keeping up a schedule of activities and events over most of the waking day. For others, it means maintaining checklists that prioritize how time is spent. Even schoolchildren maintain schedules of extracurricular classes and sports activities that fill out their waking day.

Yet idleness has profound benefits for our brains.

[ II ] We may experience moralistic feelings about the need to be active and productive most of the time. Our brains operate differently. Indeed, some scientists solve problems by dreaming about them. When chemist August Kekule had a reverie\* involving a snake swallowing its own tail he emerged with the structure of the benzene ring\* comprised of six carbon atoms.

When we are busiest, our brains are not necessarily doing very much. ( A ), when we take a break and engage in some apparently mindless pursuit like playing solitaire, walking, or shoveling snow, our problem-solving brains kick into overdrive\*. We may perceive ourselves as taking a mental break but the problem-solving brain never rests. Indeed, the problem-solving parts of the brain are found to be more active when we daydream\*.

Periods of “unconscious thought” actually improve decision making. During these periods, the same areas of the brain are reactivated that were involved in encoding the decision problem of an experiment. In other words, the brain works steadily on the problem outside of our conscious awareness.

These findings from neuroscience\* suggest that we have more creative potential if we lead lives of leisure ( B ) if we are constantly busy and hurried.

[ III ] This is an ancient idea. Aristotle celebrated the value of leisure as a cornerstone\* of intellectual enlightenment\*. He believed that true leisure involves pleasure, happiness, and living blessedly. It is more than mere amusement and is impossible for those who must work most of the time.

In Aristotle’s slave-based society, many people were forced to work constantly and could forget about leisure and the blessed life. In our time, most people have some leisure time and what matters is not ( C ) much the availability of time to develop creative endeavors as the willingness to carve out unscheduled time during which the unconscious mind can develop answers to practical, creative, or intellectual, problems.

[ IV ] Creative people need downtime when their daydreaming brains can bring new ideas, and novel

products, to light. One way of achieving this inner quiet is through withdrawing from other people. Perhaps this is why introverts\* are responsible for so much of the world's creativity.

Yet, there is also an important role for social interaction in spurring creativity; historians frequently point to the clustering of artistic and scientific accomplishments at specific historical times, in particular places, where like-minded\* creators meet and interact. This phenomenon reminds us that we are social animals who achieve our greatest accomplishments with the help and encouragement of others. Such favored times and places invariably have what could be called a well-developed infrastructure of idleness.

In other words, there are many places where creative people can get together and exchange ideas on whatever ( D ) in their relaxing brains.

- [注] slacker 怠け者      inculcate 教え込む      gin up 高める  
sweeten 増す      bound 範囲      reverie 夢  
benzene ring ベンゼン環 (六つの炭素原子からなる正六角形の構造)  
overdrive 高度の活動状態      daydream 空想にふける      neuroscience 神経科学  
cornerstone 土台      enlightenment 啓蒙      introvert 内向的な人  
like-minded 似たような考えをもった

1. 空欄(A)~(D)に入るもっとも適切な語を、(1)~(4)の中から一つずつ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。(2×4=8点)

- (A) (1) Conversely      (2) Consequently      (3) Fortunately      (4) Therefore  
(B) (1) as      (2) what      (3) then      (4) than  
(C) (1) as      (2) too      (3) so      (4) very  
(D) (1) surfaces      (2) falls      (3) discusses      (4) thinks

2. 本文の次のそれぞれ指定されたブロックについて、その内容にもっとも合致しているものを、(1)~(3)の中から一つずつ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。(3×4=12点)

[1] ブロック I

- (1) 怠け者が許容されることはまったくありえない。  
(2) 産業革命以後、個人の持つ時計の数も、公共の場にある時計の数も、どんどん増えていった。  
(3) スケジュールに追われる日々の生活の中で、仕事と余暇の区切りがあいまいになりつつある。

[2] ブロック II

- (1) アウグスト・ケクレは、実際に蛇が自分の尾を飲み込むのを見てベンゼン環の構造を思い付いた。  
(2) 我々がソリティアをしたり、散歩したりしている時には、我々の脳もまた休息を取っている。  
(3) 無意識の思考が行なわれている間には、脳の中の意思決定の際に使われる部分が再活性化される。

[3] ブロックⅢ

- (1) アリストテレスは、人が知的な啓発を受けるための土台として余暇に高い価値を見い出していた。
- (2) アリストテレスの考えでは、「真の余暇」とは、喜びや幸福を伴うものであり、奴隷にも取ることも可能なものであった。
- (3) 現代においては、どんな人でも余暇の時間を持っている。

[4] ブロックⅣ

- (1) 新しいアイデアなどを生み出す脳の活動には休息時間が必要で、そのための唯一の方法は、他者のいないところに行くことである。
  - (2) 創造性を刺激するために、人と人との交流は重要な役割を果たす。
  - (3) 芸術的成果は、特定の時代や場所、つまり似たような考えをもったクリエイターたちが出会い交流する場所に集まっていると、芸術家たちによってしばしば指摘されている。
3. 下線部を日本語に訳し、解答用紙に記入しなさい。(10点)

2026 年度経済学部  
高大接続入学試験  
英語 問題用紙 (No. 6 )

III. 次の各英文の下線部について、意味がもっとも近いものを(1)~(4)の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。(2点×5=10点)

1. The child is attached to the teacher of his school.  
(1) related to      (2) fond of      (3) scared of      (4) familiar with
2. According to a recent study, heart attacks are more likely to occur soon after waking up.  
(1) find      (2) operate      (3) happen      (4) suffer
3. The laboratory conducted a large-scale experiment on the effects of stress among children.  
(1) investigation      (2) treatment      (3) exposition      (4) result
4. The painting was reproduced so precisely that it was impossible to spot the difference.  
(1) revised      (2) supervised      (3) overwritten      (4) copied
5. She suddenly remembered that she had an appointment with her boss at noon.  
(1) memorized      (2) imagined      (3) reminded      (4) recalled

IV. 次の各英文が文法的に正しく、自然な意味をなすために、空欄に入るもっとも適切なものを、(1)~(4)の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。  
(2点×5=10点)

1. I was determined to (      ) the homework done once and for all.  
(1) finish      (2) get      (3) let      (4) will
2. (      ) a cruel idea had never come to my mind before.  
(1) Such      (2) So      (3) What      (4) With
3. I was annoyed that the same ad kept (      ) up.  
(1) bringing      (2) coming      (3) giving      (4) setting
4. If I were in your (      ), I would tell him to stop it as soon as possible.  
(1) coat      (2) hat      (3) shoes      (4) suits
5. There are five dresses in the closet, and (      ) is the largest one.  
(1) her      (2) hers      (3) none      (4) she

2026 年度経済学部  
高大接続入学試験  
英語 問題用紙 (No. 7 )

V. 次の各日本文とほぼ同じ意味になるように、カッコ内の 1~6 の語句を並べ替えて英文を完成させるとき、カッコ内で 3 番目と 5 番目に来るものを選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。  
(4 点×5=20 点)

1. 目的地に着く前に、電車は一、二分の間止まった。  
The train stopped ( 1. or 2. a 3. for 4. before 5. two 6. minute ) arriving at its destination.
2. スピーチを聞いて、どの仕事を選ぶべきか考えるようになった。  
Listening to the speech ( 1. I 2. me 3. consider 4. to 5. led 6. what ) should choose as my career.
3. その計画の進展について、この先も私に報告してください。  
Please ( 1. informed 2. the 3. progress 4. of 5. me 6. keep ) of the plan.
4. 赤ちゃんコアラが母親の背中に乗っているのを見たことがありますか？  
Have you ever ( 1. mother's 2. carried 3. its 4. a baby koala 5. seen 6. on ) back?
5. その質問にどう答えるべきかわからないことに気がついた。  
I ( 1. don't 2. know 3. to 4. how 5. find 6. I ) respond to that question.